16

文革派の終焉

図この10年の浮き沈み

中国での政争などに、日ごろは関心の薄いサラリーマン諸兄も、この度は多少の感懐を抱いたのではなかろうか。

「五中全会」での指導部の入れ替えである。なにしろ、ことは人事である。しかも、派閥感情むき出しときている。諸兄の世界と無縁ではあるまい。むしろ多大の関心を払ったとみるべきか――。

（写真上は華国鋒主席㊧と鄧副主席
左ページは亡き毛沢東、劉少奇氏）

1969年 毛沢東主席 林彪副主席	1968年 毛沢東主席 林彪副主席	1966年 毛沢東主席 林彪副主席	1962年 毛沢東主席
● 葉群	周恩来	周恩来	劉少奇（国家主席）
葉剣英	陳伯達	陶鋳	周恩来（首相）
劉伯承	康生	陳伯達	朱徳（全人代常務委員長）
● 江青	朱徳	鄧小平	陳雲（副首相）
朱徳	李富春	康生	林彪（副首相）
● 許世友	陳雲	劉少奇	鄧小平
陳伯達	董必武	朱徳	董必武
● 陳錫聯	陳毅	李富春	彭真
李先念	劉伯承	陳雲	陳毅
● 李作鵬	李先念	董必武	李富春
● 呉法憲	徐向前	陳毅	彭徳懐
● 張春橋	聶栄臻	劉伯承	劉伯承
● 邱会作	葉剣英	賀竜	賀竜
周恩来		李先念	李先念
● 姚文元		譚震林	李井泉
康生			譚震林
● 黄永勝			
董必武			
● 謝富治			

□ 点線内人名　副主席

■ 実線内人名　政治局員

●印は躍進した文革派および地方軍幹部

文革で実権派No.2として失脚

中央委員

中央委員

73年 中央委員
74年 政治局員

失脚

68年10月前後に"実権派"として失脚

69年 死去

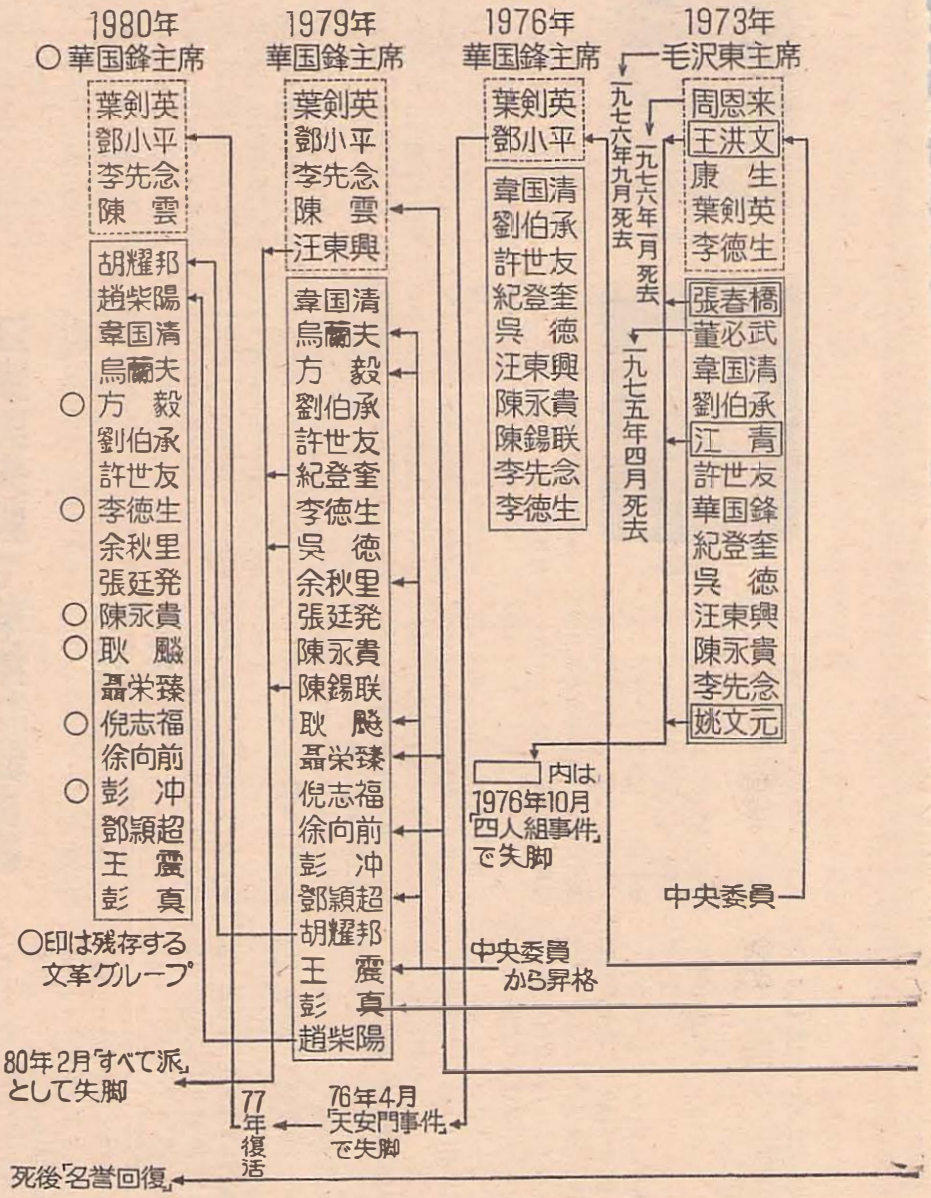
汪東興ら追放

中国新旧幹部人脈

二ころび三起きの鄧副主席

有為転変は世の習いとはいえ、かくもドラスチックな逆転劇があろうか。かつての冷や飯組が、死者までを引き連れて檜舞台に返り咲き、一時は飛ぶ鳥落とす勢いだった連中が、ひっそりと消えていった……。

「五中全会」、正式には中国共産党第五回中央委員会は、「裏切り者、敵のまわし者、労働貴族」と汚名を着せられて追放され、一九六九年十一月、河南省の開封監獄で獄死していた劉少奇元国家主席を「偉大なるマルクス主義者・プロレタリアート」として名誉を回復し、同時に、文革派の生き残り、汪東興、紀登奎、呉徳、陳錫聯の四人を



解任したのである。

それにしてもこの十余年、中国での指導者たちの浮き沈みは激しかった。その激変ぶりは前ページ表の通りである。表をご覧いただきたい。

右端、六二年のメンバーから毛沢東、周恩来、劉少奇、朱徳、林彪らの死者を除くと、これがほぼそっくり左端、八〇年、すなわち今日のメンバーと合致するのに気づかれよう。約二十年間の激動の嵐をくぐってここに再び、かつての仲間がそろい踏みしているのである。

舞台回しは、自らも二ころび三起きした鄧小平副主席である。

「七七年に実権を握った鄧小平がやったのは、まず、文革でメチャメチャになった国を立て直すこと、次いで、その時期にひどい目に遭った老人たちに、よい老後を送らせてやることだった。

ヨボヨボといってもよいほどの老軍人がヨーロッパに軍事視察にいったり、老文化人が日本にも続々ときました。

そして三番目、いま取りかかっているのが、人事での復讐といってもいいでしょう」（読売新聞外報部・戸張東夫記者）

人事での報復——話は俄然、生々しくなる。経済評論家の内橋克人さんがいう。

「まあ、中小企業には、よくこれに類した派閥抗争人事がありますね。大きいところではつい最近、山崎製パンと三井系の某化学会社でもありました。

図式的にいえば、実権を握っていた社長が会長に祭り上げられて、飾りものになる。と、社長につながっていた連中も、主要ポストから次々と左遷されていくが、会長が実権を取り戻すと同時に返り咲くといったパターンです。

今回の中国の人事も、これと同じなんですね。派閥抗争の激しい会社のサラリーマンにとっては、きわめて教訓的なできごとではないでしょうか。派閥べったりで出世をはかろうとするのは、とても危ないんですよ」

東外大教授の中嶋嶺雄さんもこんなエピソードを語ってくれた。

「あれは、六六年の十一月でしたか。たまたま訪中していたんですが、人民大会堂で劉少奇と鄧小平が文革派に批判されていました。

汪東興失脚で華体制弱まる

再び表に戻って、実力者たちの浮沈の跡をたどってみよう。

文革前の六二年は劉少奇、鄧小平体制だった。六六年、文革が始まると林彪がのし上がり、七一年に「反毛クーデター未遂事件」で死亡するまで、副主席を独占している。

この間、人事は、江青女史らの「文革小組」と呼ばれた私設機関の思いのままで、鄧小平はじめ、現在、政治局員としてカムバックしている彭真、聶栄臻、陳雲らは失脚、冷や飯組となった。

一方、ひとときのわが世の春を謳歌したのは、江青女史ととも

汪東興氏

江青女史

趙紫陽氏

この会場は禁煙なんですが、劉はたばこをプカプカ吸い続け『いまに見ていろ』といった態度だったし、鄧小平は憮然たる表情でしたね」

劉少奇のこの「いまに見ていろ」は、十余年を経ていま現実のものとなった。

もに「上海グループ」と呼ばれた張春橋、姚文元、王洪文とか林彪の腹心、黄永勝、李作鵬、呉法憲らだった。

現主席の華国鋒も、この文革中に、頭角を現した一人である。

一九七六年、中国は「不平風的（ブヴェンプンアン）（並々ならぬ）年」を迎えた。

一月、周恩来が死去、四月には社会主義建国以来、初の民衆暴動「天安門」事件が発生、六月には「唐山大地震」に見舞われ、九月には毛沢東が死去した。

カリスマ的存在を失い、後継者をめぐる文革派、実権派の激突が表面化してきた。文革派でありながら「四人組」とは距離を置いていた華国鋒が、主席の席を占めたのは、両派の妥協の産物だった。

この間、鄧小平は「天安門事件」の責任をとらされて、再度失脚していた。十月「四人組」が逮捕され、「四人組」以外の文革派と実権派の上に乗っかった華国鋒体制は、それなりに固まったかに見えた。

だが翌七七年七月、鄧小平が復活、事態は一変する。

「たとえば悪いけど、分かりやすくいえば、ヤクザの一家とします。組一番の実力者幹部の鄧小平が、『天安門事件』の責任をとってワラジをはいていた。

戻ってきたら親分は死んでいて、ヘンな男が二代目になっている。よしッていうわけで、息のかかった子分を集め、組の実権を握った、ついでに反対派を追い出した、ということですよ」（前出の戸張記者）

では、二代目、華主席はどうなるか。

アジア経済研究所の今川瑛一さんはこうみる。

「華国鋒は、もう二年前に鄧小平に負けているんです。しかも鄧小平にくっついちゃった。文革派を裏切ったといってもいいでしょう。これからは、儀礼的な役割だけに専念する元首として存在していくとみているんですが」

中嶋教授もこういう。

「彼は、一昨年十二月の『三中全会』で、従来の文革路線を捨てる自己批判をして、鄧小平に

歩み寄ったんです。

昨年の大平訪中のときの大平・華会談でも、印象的な場面がありました。主席なんだから堂々としていればいいんですが、会談中、七回も『鄧副首相が：：』といってるんですね。七回もですよ。

いまや力はない。汪東興の力を借りてここまできましたけど、その汪東興が今回失脚してしまったので、いよいよ弱まるばかりでしょう」

とすると、これからの中国は完全に鄧小平一色に塗りつぶされていくのか。「いや」といって中嶋教授が続ける。

「鄧小平という人は、大衆や軍、中堅幹部には人気があるんですが、トップレベルの連中の間では、意外と人気がないんです。

ことし一月の彼の演説が人民日報に載らなかったり、根強い反対と抵抗があるようです」

今川さんもこういう。

「昨年、政治局内で対ソ関係正常化の動きがあり、鄧小平の親米路線が批判されたんです。

あのころの鄧小平は、マルコス・フィリピン大統領夫人に『もう辞めたい』といっていたくらいです。このまま親米、反ソ路線が続けば、当分、鄧体制は安泰でしょうが、反鄧勢力も残っているので、国際情勢の揺れ方次第では、もう一度逆転のケースもあるかもしれません」

数では復活グループだが…

香港で発行されている「ファー・イースタン・エコノミック・レビュー」一月十一日号に、「八四年の中国はどうなっているか」についてのハーフ・シリアス（真面目半分、つまり面白半分）の物語が載っていた。大要こうである。

「八〇年、華国鋒の地位は低下する一方で、文字通り名ばかりの存在となってしまった。八一年、内政をめぐる意見の対立から鄧小平が首相に就任し、毛沢東支持者は政治局から一掃された。華国鋒はついに、名目上の地位も失ってしまった。

そして八四年、八十歳になった鄧小平は脳溢血で倒れ、後継首相には、鄧小平の意をうけた趙紫陽（七七年党中央政治局候補、七九年同局員、そして今回の「五中全会」で同常務委員、とトントン拍子に出世した鄧小平の腹心）が就任した。

しかし、華国鋒はじっと待っていた。彼はまだ六十四歳だった。鄧小平のもとに結集している陳雲、胡耀邦らは『老兵』で、間もなく引退の時が迫っている。

そのときこそ、華国鋒が若手の毛沢東支持者を結集して、再び権力の座に座るチャンスなのだ」

戸張記者もこういう。

「現在の政治局員は二十六人。このうち、鄧小平ら復活グループは十七、文革グループは九、数のうえでは復活派が圧倒的だが、時間は、圧倒的に文革グループに有利です。

復活グループは十七人中十三人が七十歳以上、これに比べて文革グループは、七十歳以上はたった二人、倪志福の四十六歳を筆頭に、あとは六十歳代と若い。

当分〝いい子〟にしていれば、将来の栄光は黙っていても手にはいるんです。

それに、これは重要なことですが、現在の党員三千五百万人のうち、半数近くが文革後に入党した人たちです。つまり、文革路線を正しいと認識して入った人たちですね。

この人たちは、いってみれば華国鋒の票田です。まだまだ華国鋒にも目がある」

もし華国鋒が再度、実質ともに権力の最高の座を占めれば、今度は華国鋒による人事での復讐があるのか。

「人間万事塞翁が馬」

ままよ、明日は明日の風が吹く。

華やかな祝福ほど
ふたりの感動を大きくする。

格調高い挙式・ご披露宴、お料理は和食・洋食・中華料理ございます●数名様から600名様まで、それぞれご人数、ムードに合ったお部屋をご用意致します●国電、上野、御徒町駅前より徒歩3分●駐車場もゆったり200台●ウエディングセット40名様・340,000円より。

晴れの日 真心こめて

タカラホテル

〒110東京都台東区東上野2-16-5

☎03(831)0101